

【事例報告】「西区まるごと博物館」のボランティア活動について

西区まるごと博物館推進会 会長

川岡 保氏

私は、「西区まるごと博物館推進会」代表の川岡保です。よろしくお願いいたします。

先ほど推進会事務局の萬さんから推進会発足の経緯や目的、組織体制や活動内容などの説明がありました。私たちの活動は今年の8月で推進会発足から10年目になります。昨年度推進会の代表として就任しましたが、発足当時から企画広報部会の代表として8年間勤めて参りました。また私のもうひとつのボランティア活動に、「唐津街道姪浜まちづくり協議会」があり、こちらの会の代表もしております。この会も発足して7年になりますが、丁度同じような活動で、比較対象として違いが分かるのではないかと思います、お話をさせていただきます。

両団体のまちづくり対象範囲は「西区まるごと博物館推進会」が福岡市西区全体、「唐津街道姪浜まちづくり協議会」が福岡市の西区、姪浜ですが、運営資金面で大きな違いがあります。

それは、「西区まるごと博物館推進会」は福岡市からの運営資金と企業からの協賛金でなりたっているのに対し、「唐津街道姪浜まちづくり協議会」のほうは国、県、市の補助金と企業の協賛金、さらに会員の会費で成り立っております。国や県、市や企業の補助金とはいえ、これは安定して貰えるものではなく、申請して審査に通ってこそ貰えるものなので、不安定な補助金と言えます。従って、後者は主に会員からの会費で、活動資金を賄っております。これはボランティア活動の大切な要素でもあります。

次にそもそも「ボランティア活動とはなんなのか」について私の考えを、お話しします。

一つは自主的に無償で、社会貢献、奉仕活動をする方、もう一方は有償ボランティアで会費をだして社会貢献する方。どちらも有償と無償の違いはありますが、共に社会貢献をしております。しかしこの無償ボランティア活動の場合は組織から強い拘束を受けず、また自発的行動に基づく活動であるため、組織が統制してボランティアをお願いすることは難しいと考えられます。そのため、「西区まるごと博物館推進会」発足当時の企画広報部会会議は、事務局と私の二人だけの出席者ということが何回もありました。

「どうして出席しないのか」と考えてみますと、まず会議が面白くない、自分で発言する機会がない、会議情報が少ないなど、さまざまな要因があるようです。

先ほどの説明のように「西区まるごと博物館推進会」には自然部会、歴史部会、文化部会、さらに企画広報部会と4つの部会がありますが、その各部会で提案や意見があったことを事務局がまとめ、運営会議で再審査・検討し、全体会議で承認することとなっています。自然、歴史、文化部会はそれぞれ福岡市の西区の魅力を発掘し、その魅力を活用していろんな企画をするのに対し、企画広報部会はその魅力をまとめ、広報するのが役割です。しかし全体をまとめる運営会議では、代表と副代表しか出席できないため、企画広報の各委員は運営会議で審査・検討した情報を共有できず、企画部会会議に出席しても面白くない、ということになったのだと思います。

これは会議だけに限ったことではありません。その団体が企画運営するイベントの出席状況も同じことが言えるのではないのでしょうか。

それではどんなことをすれば、ボランティアに出席してもらえるのか。私なりに考えてみました。それはだいたい次に掲げることではないかと思います。

- ・自分が住んでいる所を故郷としてとらえ、地元の発展に寄与したいという「心」が芽生えること。
- ・自分が住んでいる場所の「まち自慢」をしたいという想い。
- ・3番目に、会員同士を真の友人として、みんなで協力してボランティアをしようとする心構え。
- ・一人一人が自由な発想で企画し、承認を受ければ、実現に向けて会全員で協力して取り組もうとする姿勢。

- ・何のイベントであれ、成功した喜びを共に分かち合うこと。
- ・一人一人の小さな貢献活動が成功に結びつくという喜び。
- ・義務感から開放されて気楽に行動することが、長続きする秘訣である。
- ・家族や仕事が最優先で、家族や仕事を犠牲にしてまでボランティアをすることは必要ありません、という考え方。

以上のようなことを会の全員の皆様に呼びかけたところ、気が楽になられたのか自然に出席率やイベントの参加率がよくなりました。またボランティア活動とはいえ、自分から率先して積極的に行動する方と、黙々と行動する方がいらっしゃいますが、前者の方々には、ある程度、責任ある組織の一員となっただけということも大事なことはないかと思います。そうでないとこの方々は「いつのまにか退会される」原因となるのではないかと思います。

またボランティアで必要なことは、“会員間のコミュニケーションの場”があるかないかではないでしょうか。会議のなかだけのお堅い場だけでなく、自由に物が言える場所、会員相互の親睦と互いの不安解消が図れる、所謂 ノコミュニケーションの場です。

私はボランティアの代表でいつも大事にしていますことは、私の一番の役割は「飲み会の先導役」と思っています。私たち「西区まるごと博物館推進会」は、年間を通じ各部会が企画して実施するミニイベントのほか、年一回、先ほど言われた、西区のある場所で、西区が誇るたくさんの宝、すなわち「地域の魅力」を披露する大きなイベントを開催しております。

ここで本年度開催したイベントをご紹介します。

今年は姪浜中央公園で開催しました。このイベントに向けて長時間話し合いを続け、イベントが成功するよう皆で頑張ってきました。今年は観客動員数5000名で大成功のうちに終わりました。この喜びをみんなで共有することが、ボランティアの醍醐味ではないでしょうか。またこのボランティア活動がマスコミに取り上げられ評価されたこともボランティアの喜びでもあります。活動はマスコミにも取り上げられない小さな社会貢献活動も沢山あります。一人一人が社会貢献に喜びを見出し、頑張る姿勢こそ真のボランティア活動ではないでしょうか。

最後に私たちの活動が、西区の発展に結びつき、西区を魅力的で個性的な街にしようという目的で、まだまだ道半ばですが、これからも魅力ある有形・無形の地域資源を、西区の宝として、なお一層輝かせることができるものと信じ、楽しく気軽にボランティアをしていくことにします。

以上が私のボランティア活動の事例報告です。

どうもありがとうございました。